

現況分析における顕著な変化に
ついての説明書

教 育

平成22年6月

山形大学

目 次

3. 地域教育文化学部	1
5. 医学部	2
6. 医学系研究科	5

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 地域教育文化学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 進路・就職の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 関係者からの評価

(理由)

平成20年度及び21年度において、関係者からの評価の把握に努めた。

(1) 「学部卒業予定者からのアンケート調査」結果

地域教育学科において、卒業予定者に対するアンケート調査(満足度調査)を毎年7月に実施し、多くの学生が満足している結果であった。【資料1】

【資料1】「地域教育学科に入学してどの程度満足していますか」アンケート調査結果

(評価基準 5:満足度80~100%、4:同60~79%、3:同40~59%、2:同20~39%、1:同0~19%)

	平成20年度	平成21年度
5:満足度80~100%	23%	24%
4:満足度60~79%	39%	56%
5~4の合計	62%	80%

(2) 教育委員会及び企業訪問、インターンシップ受け入れ企業からの評価

就職先である教育委員会や企業などを訪問し採用を依頼した。その結果、本学部と同程度の就職率を達成し、就職した学生に関する評価には肯定的な意見が多かった。【資料2・資料3】

また、インターンシップを受け入れた企業からは、「受け入れた学生からの刺激で活性化が図れた」などの肯定的な意見(平成20年度:55.0%、平成21年度:60.0%)が多かった。

【資料2】教育委員会及び企業訪問先

	教育委員会	企業
平成20年度	14都県、3政令指定都市	40社
平成21年度	14都県、5政令指定都市	42社

【資料3】就職した学生に関する評価

- ・真面目でコツコツ努力する。
- ・採用者の中でも優秀である。
- ・よくがんばっている。

(3) 地域教育文化学部同窓会における聞き取り調査(支部総会)結果

同窓会支部総会(山形県内9支部、関東地区5支部:構成員は、本学部出身者の教員(OBを含む))から様々な要望が出されており、これらの要望に応え、教育ボランティアの派遣増員や教員採用対策講座を実施し、教員採用者数の向上を実現した。【資料4~資料7】

【資料4】同窓会からの要望事項

- ・より高い質の教員養成
- ・地域との連携を図れる教員の育成
- ・教育実習生や教育ボランティア学生の派遣を希望
- ・教員採用率の向上

【資料5】教育ボランティア登録者数

平成20年度	59名
平成21年度	75名

【資料6】教員採用対策講座受講者数

平成20年度	89名
平成21年度	78名

【資料7】教員採用試験合格者数

平成20年度	44名
平成21年度	49名

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 II 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

- ・ Student Doctor 制の導入
- ・ 学部教育から専門医教育までの一貫した医師養成コースを新設

(理由)

学部教育及び臨床実習の改善充実のために、平成 20 年度に次のような取組を開始したところである。

(1) Student Doctor 制の導入

(概略)

山形大学医学部医学科では、4 年次の 1 月から 6 年次の 7 月まで臨床実習を行うこととしている。Student Doctor とは、山形大学医学部で独自に定めた制度であり、平成 21 年 1 月から全国の医学部に先駆け新たに導入した制度である。

(資格及び称号の付与)

以下の条件をクリアした学生に対し「Student Doctor」の称号を付与し、学生一人一人に認定証を発行する。

- ① (社) 医療系大学間共用試験実施評価機構が主催する全国共用試験 (CBT 及び OSCE) の結果が一定の成績以上の者
- ② 4 年生の臨床実習前に修得すべき所定の授業科目の単位をすべて修得した者

(目的・ねらい)

Student Doctor には、主に次の四つの目的・ねらいがある。

- ① 臨床実習に入る学生に自覚とモチベーションを与える。
- ② 実習中に学生が医行為をすることに対して、大学としての姿勢や責任を示す。
- ③ 医学部の指導体制や教員の指導力向上を図る。
- ④ 患者さんに (一般社会に)、自分達が若い医師を育てているという意識を持ってもらう。

(期待される効果)

将来の学生の診療能力向上のために、学部教育の段階から可能な限り指導に医行為を取り入れ、医師免許を有していない学生が、積極的診療参加型の臨床実習を行えるようになることを考える。

(2) 学部教育から専門医教育までの一貫した医師養成コースを新設

(概略)

- ・ 診療科偏在を解消するため、医師の減少の著しい小児科、産婦人科、救急医学、外科の医師養成のための専修コースを新設した。
- ・ 専修コースは、学部教育から卒後臨床研修、専門医教育 (後期臨床研修) までの一貫した医師養成プログラムから構成され、小児科専修コース、産婦人科専修コース、救急医学専修コース、外科専修コースからなる。
- ・ 本コースに所属した学生には、4 年次以降 3 年間の学費は免除するとともに、卒業後は、県が運営する医師確保対策の修学資金に推薦することになっている。

(ねらい)

学部教育から専門教育までを、本学医学部及び附属病院を中心として行うことにより、医師の県内定着率を向上させ、山形県の地域医療に貢献する医師の養成が期待できる。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 III 教育方法

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

・医行為ガイドラインの見直しによる臨床実習の改善

(理由)

臨床実習の改善充実のために、Student Doctor 制の導入とともに次の取組を行ったところである。

(1) 医行為ガイドラインの改善

Student Doctor 制の導入と表裏一体となることとして、医行為ガイドラインの見直しを行った。

平成3年5月に厚生省から臨床実習検討委員会最終報告として、医学生の臨床実習において一定条件下で許容される基本的医行為が例示された(平成3年5月13日厚生省健康政策局長通知。委員長群馬大学 前川正学長)。

山形大学医学部では、この通知を受け「診療参加型臨床実習で学生に許容される医行為のガイドライン」を独自に策定し実習指導を行ってきたが、医療の進展とこれまでの実習経験、Student Doctor 制の導入を契機に、平成21年12月に一部を改訂し見直しを図ったところである。

以上のとおり、Student Doctor 制の導入により学生の自覚と責任を促すとともに、医師免許を持たない学生に許容される医行為の範囲を線引きし、可能な範囲において医行為を積極的に取り入れることで診療参加型の臨床実習の安定化を図るとともに、一層の推進体制を整えたところである。

(2) 今後の課題

実習中の医行為の実施状況及び内容等について、情報を収集したり、アンケート調査を実施するなどしたりして、診療参加型臨床実習に対する形成的評価を行い、Student Doctor 制度及び医行為ガイドライン等の検証と更なる改善を図っていく予定である。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 医学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 IV 学業の成果

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学業の成果に関する学生の評価

・医学科卒業生及び在学生に対する授業評価（カリキュラム関係）の実施と改善

(理由)

平成 21 年度に、卒業生及び在学生による授業評価（カリキュラム関係）を行うとともに、それを基にカリキュラムの改善に着手した。

(FDに関する取組の実施)

(1) 医学科卒業生に対するヒアリング調査の実施

平成 21 年 3 月に山形大学医学部医学科を卒業し、現在附属病院において臨床研修中の学生に対し、医学教育 6 年間の教育に関する調査を 6 月に実施した。

対 象 成績上位 2 名、中位 3 名、下位 2 名 計 7 名

調査内容 医学科のカリキュラムについて（1 年～6 年それぞれの長所と短所等）

調査結果 調査の結果により、医学科のカリキュラムの傾向がある程度明らかになった。

- ・ 1 年次の教養教育と 2 年次の専門教育科目のギャップが大きい。
- ・ 専門教育に入った 2 年次の負担が大きい傾向にある。
- ・ 3 年次以降の課題 など

以上の結果を基に、更に在学生に対して調査することとなった。

(2) 在学生に対するアンケート調査の実施

対 象 臨床実習前の 4 年次学生 102 名

調査内容 上記 (1) で明らかになった課題に対するより詳細な調査

調査結果 幾つかの課題が明らかになった。

- ・ 1 年次専門教育科目の見直し（2 年次専門教育科目の 1 年次への一部前倒し）
- ・ 2 年次専門教育科目の見直し
- ・ 3 年次以降の課題の抽出 など

(3) カリキュラムの改善

種々の調査結果に基づき、教務委員会及びカリキュラム検討委員会等において授業科目について検討を行った。

これにより、1 年次及び 2 年次専門教育科目を見直し、関係規程を改正するとともに、新カリキュラムを平成 22 年度入学者から適用することとなった。

(4) 今後の課題

引き続き、学年進行により医学科教育の見直しを予定している。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 医学系研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 V 進路・就職の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 卒業（修了）後の進路の状況

(理由)

看護学専攻（博士前期課程）では、専門看護師の認定コースとして「小児看護学」を有し、平成 22 年 3 月までに小児看護専門看護師を 3 名輩出し、それぞれ病院で CNS として活躍している。小児看護専門看護師は、全国で 40 名が登録されており、7.5%が本学で育成したことになる。特に、北海道・東北地区では 2 名しか登録されておらず、そのうち 1 名は本学修了生である。

平成 21 年度に全国で看護系大学院は 115 校となったが、平成 20 年度には「老人看護学」が全国で 13 校目に認定され、2 名の修了生を輩出した。平成 21 年度には「在宅看護学」が全国で 2 校目に認定され、3 名の修了生を輩出した。なお、本学は、国立大学で「在宅看護学」教育課程を認定されている唯一の大学である。

国立大学で、看護学博士の学位を授与する大学は、全国で本学を含め 6 校しかなく、看護学専攻（博士後期課程）では、平成 21 年度に完成年度を迎え、第 1 号の学生を輩出した。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 山形大学

学部・研究科等名 医学系研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例 ③「小児看護専門看護師（CNS）の輩出」（分析項目V）

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

(理由)

看護学専攻（博士前期課程）では、専門看護師の認定コースとして「小児看護学」を有し、平成 22 年 3 月までに小児看護専門看護師を 3 名輩出し、それぞれ病院で CNS として活躍している。小児看護専門看護師は、全国で 40 名が登録されており、7.5%が本学で育成したことになる。特に、北海道・東北地区では 2 名しか登録されておらず、そのうち 1 名は本学修了生である。